

まちのわだい

手作りの味を楽しみました

日光春の山菜を食べる会

六月五日（日）、「日光春の山菜を食べる会」が日光公民館で開かれました。今回で三九回目を迎えるこの会は、日光地区のグループである「日光山菜会」の主催で、毎年春と秋の年二回開かれています。

会場となった日光公民館には約四十名の方が集まり、品数豊富な山菜料理を十分に楽しんでいらっしゃいました。

日光山菜会の方のお話によると、

「参加者の中には何回か参加されている方もいらっしゃるの

で、毎回同じメニューを出すのではなく、工夫を凝らしたメニューを考えています。」とのことでした。

おなかも心も満たされました

次回は十一月頃に開かれる予定だそうです。



出雲街道に学ぶ

出雲街道の歴史を訪ねる会

六月五日（日）、「出雲街道の歴史を訪ねる会」が伯耆町、日野町の境にある間地峠で開かれました。

約百名の参加者は、江戸時代に参勤交代の道として利用された出雲街道を散策し、江戸時代の旅人の気分を味わいました。

また、この日のために間地と日野町船場の方が協力して当時の茶屋を再現し、参加者の疲れを癒していました。

郷土の歴史に触れました

こども考古学教室

六月三日（金）、「こども考古学教室」が八郷小学校の四年生を対象に開かれました。

この教室は、出土品を実際に目にする事によってその用途や当時の生活を想像したり、講師の指導により石器作りを体験したりすることで、こどもたちに郷土の歴史に対する理解と愛情を抱いてもらおうと開かれました。



江戸時代の茶屋で舌づつみを打ちました



石器作りに夢中です

伯耆町と韓国の掛け橋に

伯耆町韓国講座

六月六日（月）、伯耆町と韓国との交流を促進することを目的として、「伯耆町韓国講座」第一回が、農村環境改善センターで開かれました。

この講座は平成十四年度から旧岸本町で開催されており、合併して伯耆町となつてからは初めての開催となりました。

講師は、西部総合事務所国際交流員の沈 載賢（シム・ジェヒョン）さん。今回は、韓国語での挨拶や「写真で見る韓国」という内容で写真を見ながら歴史、文化についてとてもわかりやすく学べました。今後、韓国語で歌うカラオケ、地元の素材で作る韓国料理、絵本で楽しむ韓国昔話など年間十回の講座が予定されています。

町内在住者を対象として募集された二十名の受講生の中には、この講座に参加するのは数回目という方もおられ、韓国への関心の高さがうかがえます。



沈（シム）先生に楽しく教えてもらいます